

令和 5 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立和歌山工業高等学校 校長名： 藤田 勝範

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・ 質実剛健の校訓に基づき、専門的な技能や技術を習得させ、地域貢献をになう人材の育成を目指す。
- ・ 社会人としてのマナーや社会に貢献できる人材にふさわしい態度や資質が身につけている。
- ・ 主体性や協調性、創造性を身につけ、課題や困難の克服に最後まで粘り強く取り組む態度が身につけている。
- ・ 危険予測ができるようになるとともに、安全に対する重要性を認識し行動する態度が身につけている。
- ・ 専門分野の知識と技能を習得し、「ものづくり」に意欲的に取り組むことができる。

学校評価の公表方法

自己評価及び学校関係者評価の結果を、ホームページに掲載する。

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月8日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗	進捗状況	今後の改善方策
1	生徒に向上心を持たせ、主体的に活動させる場面のある授業づくりを推進し、確かな学力の定着を図るとともに、キャリア教育の一層の充実を図る。	B	アクティブ・ラーニングの視点を重視し、一人一台 PC 等の活用も含め、生徒が主体的に学ぶことができる授業の研究を行う。	研究授業を 20 回程度	B	研究授業は各科で行い、職員全体向けに ICT を活用した授業の研修会を行った。また、新学習指導要領に基づいて授業研究を行った。	昨年度までコロナ禍で実施できていなかった工場見学や、インターシップ等が再開され、生徒の行動範囲が広がり、より専門教科への意識が高まった。 一方で、インターシップでは生徒の希望する企業に行けない生徒も多数いたため、意欲の差が顕著に現れた。今後、インターシップの在り方について再検討する必要がある。
			生徒が発表や議論を行う授業を実施する。	課題研究等の発表会を 10 回程度	A	課題研究の発表会は各科で行っており、今年は校友会の企業向けにも課題研究の発表会をした。計 10 回。	
			生徒の進路選択につながるインターンシップおよび進路説明会を実施する。	進路説明会を 10 回程度、インターンシップ時の産業系企業割合 80%程度	A	就職、進学に関する説明会や見学は 10 回程度開催。就職内定率 100%。	
2	工業高校としての専門性を生かした資格取得、技能・技術の習得を積極的に推進することで、ものづくりの楽しさを体感し、自ら学び続ける力を育成する。	B	資格試験等の受験者数・合格者数・合格率を向上させる。	合格者数延べ 900 人、合格率 60%程度	B	資格試験の受験者数延べ 1400 人、合格率 55%。受験者数は昨年よりは大幅に増加。	資格試験の受験回数が増え、科によっては新しい資格にも挑戦し、資格試験を有効に活用し、授業内に取り込んでいる。 今後もマイスター制度等を利用し、資格取得率の向上を目指す一方で、受験者数を増やすだけでなく、更に上位級を目指して資格取得率の向上も目指したい。また、この資格を就職や進学に繋げてきたい。
			ジュニアマイスターの受賞人数を増加させる。	ジュニアマイスターの受賞人数 40 名程度	A	ジュニアマイスター受賞者数は 57 名。内 3 名は特別表彰。(昨年度は 40 名)	
			小学校等への出前授業など、他校種との連携を積極的に行う。	出前授業等の取組 10 回程度	A	地域貢献活動をクラブ活動等で約 15 回実施。	
3	部活動や自主活動の一層の振興を図ることで、希望する進路の実現のため職業人として必要な豊かな人間性を育む。	B	通学マナー、身だしなみ、あいさつ等、規範意識を向上させる指導を行う。	身だしなみ指導を学期 1 回、街頭指導を月 2 回程度	B	街頭指導は月 2 回、頭髪服装検査は各学年、年 3 回行っている。	定期的な検査で規律は守られているが、未だ服装・頭髪等の乱れはあるので、さらに職員が一丸となって、日常的な指導にも力を入れる必要がある。部活動の充実については、引き続き学習活動との両立も図りながら進めていく。 小学生を対象としたものづくり教室には多数の応募があり、より小学生が興味を持つ内容を考え、来年度開催につなげたい。
			大会やコンクール等における成果を充実させるため、生徒に研修や強化練習会等へ積極的に参加させる。	県代表に相当する人数 50 名程度	A	近畿・全国大会、県代表のコンクール等 14 クラブ (52 名) の生徒が出場した。	
			小学生を対象としたものづくり教室を本校で開催し、生徒と連携してものづくりの楽しさを伝える。	各科において 10 名程度の小学生の体験	A	全体で 37 名の応募があり、3 班に分かれてものづくり教室を開催。	
4	地域連携や地域貢献を軸とした、地域とともにある学校づくりを推進する中で、主体性や協調性、創造性を身につけ、課題や困難の克服に最後まで粘り強く取り組むことのできるものづくり人材を育む。	A	地域とともにある学校づくりのため、県内企業や技能士と連携し、ものづくりに対する高い技術と職業人としての心構えを身につけさせる。	技術指導件数を 50 回程度	A	実習等における外部講師の指導、また技能検定の補習における技能士の指導等、計 100 回以上実施。	今年度は目標とする回数の講習会や企業との連携を行なうことができた。今後も実習中の災害を出さないことを念頭に行っていきたい。 地域とともにある学校づくりにおいて、知識の習得だけでなく、地域社会との繋がりを大切にし、実践的な技術や職業倫理を身につけることが必要であると考える。また、今後も若手教員を対象とした研修も行う必要があると考える。
			安全に対する重要性を認識し行動する態度を身につけさせる。	実習や実験によるけが等の災害を出さない	A	今年度、実習等による大きなけがはなし。	
			ものづくりに対する指導力向上のため、主に若手教員を対象とした校内研修会や、地域企業との連携による技能講習会を行う。	技能講習会や地域企業連携の数 8 回程度	B	校内での技能講習会や地域企業への研修等、複数回実施。	

学校関係者評価（2月8日実施）

<生徒評価>

肯定的評価 72.2%(昨年度 68.9%)。
今年度は、工場見学や現場見学に行く機会が増えたことや、インターンシップにも行くことができたので、「インターンシップが進路選択に影響を与える取組みである」という項目や「キャリア教育などの取組が十分に行われている」と考える生徒が増加している。昨年度の課題であった、「積極的に発表や議論をする授業を受ける」という項目においては、肯定的な意見も増加した。引き続き、ICT を利用した授業や、現場見学を活用した授業等の推進が必要である。

<保護者評価>

肯定的評価 76.5%(昨年度 72.8%)。
保護者の方が「進路保障が図られている」と考える人が多数いることがわかった。また、「地域企業と連携できていること」の項目においても高い評価を得ている。これは、「他の学校にはない特色があること」の評価にもつながっていると考えられる。
一方で、生徒が「授業内容を理解し、基本的なことが身に付いている」という項目には、肯定的意見が少なかったため、来年度以降の課題となる。また、「家庭と学校との連絡が適切に行われている」という項目の評価を高めることで、保護者の理解の促進に繋がり、適切な指導が行いやすくなると思う。

<学校運営協議会委員評価>

肯定的評価 90.0%(昨年度 89.3%)。
「和工生の活躍を新聞等で知る機会が多く、大変嬉しく思います。地域への貢献、アピール等、今後も楽しみにしています」、「地域の方の役立つ物を考え、生徒作成で何か残せる物を作ることができれば良いと思う」などの意見をいただいた。